

火山災害に備えて

もし富士山が噴火したら？

令和3年3月26日に開催された「第11回富士山火山防災対策協議会」（山梨県・静岡県・神奈川県などで組織）において、富士山ハザードマップが約17年ぶりに改定されました。

これまで、富士山噴火による神奈川県への影響は降灰のみとされておりましたが、この改訂により、神奈川県内7市町（相模原市・小田原市・南足柄市・大井町・松田町・山北町・開成町）に新たに溶岩流が到達する可能性があることが示されました。

溶岩流は、溶けた岩石が地表を流れ下る現象です。ゆっくり流れるため避難が可能とされており、山北町と静岡県との境には噴火から33時間で到達するとされています。

富士山が噴火して溶岩流被害が予想される場合には、山北町は自家用車や町が運行する避難用バスによって避難します。その際は、指定される安全な場所に移動・一時的に集合し、安否を確認したのちに、安全な町外の広域避難所に避難することになります。

富士山が噴火した直後であっても、慌てることなく、富士山直下の自治体の人たちの避難を優先しながら、まずは避難準備をしましょう。

火山噴火に伴う災害

火山は時として大きな災害を引き起こし、人や建物などに被害をもたらします。神奈川県で特に注意すべき噴火に関する現象をまとめました。

▶ 溶岩流

溶岩流とは、火口から流出した溶岩が地表を流れ下る現象で、比較的ゆっくりと流れ、冷えて粘性が増したり、市街地のように勾配が緩い地形では、人がゆっくり歩く程度の速度にまで低下します。避難経路を確認しておき、町の指示に従って避難しましょう。

▶ 降灰

降灰は、火山が噴火しマグマなどが細かく砕けて火山灰となって降る現象です。火山灰が直接の原因となって直接人命に影響を及ぼすようなことはありませんが、呼吸器系の障害を引き起こすほか、大量に降り積もると家屋を押しつぶすことがあります。風向きや噴火の規模、火山からの距離によって火山灰の厚さは変わりますが、最大級の噴火の場合、神奈川県内では全域で2cm以上、県西部では30cm以上に達する可能性があります。

▶ 降灰後の土石流

降灰により雨水が地面にしみ込みにくくなり、勢いを増した雨水が斜面を削って土砂や岩を取り込み発生する現象が、降灰後土石流です。特に厚さ10cm以上積もる地域では、何回も土石流が起こることがありますので、降雨時は注意が必要です。

降灰時の注意

■ 事前に承知しておくこと

- 火山灰を吸い込まないために高性能のマスクを着けましょう。もし持っていなければ、濡れた布を使いましょう。
- 外出するするときには、目を保護するゴーグルなどを着けましょう。
- 人命救助など必要な場合以外には、自動車を運転しないようにします。特に濡れた火山灰はスリップ事故の原因になります。また、火山灰は自動車の故障の原因にもなります。
- 火山灰は水浸しにすると固い塊になります。清掃が余計に困難になります。屋根上の火山灰が吸水すると、屋根が落ちる危険性が高くなります。
- 火山灰は庭や道端に捨ててはいけません。丈夫な袋に入れて町が定める場所へ集積します。
- 火山灰を排水溝や下水、雨水管に流してはいけません。配水管が詰まって、下水処理施設をいためる可能性があります。

■ 降灰の除去作業をする時は

- 火山灰の重さによっては、木造家屋が倒壊するおそれがあります。木造家屋に30cm以上の降灰があったら、無理をせず、避難を考えてください。
- 屋根の清掃をする場合は、火山灰が5センチ以上降り積もる前に行うようにしましょう。放置すると固くなります。
- 火山灰の排除作業を行う場合は、足場の安全を確保するとともに、必ずヘルメット、高性能マスクやゴーグルを装着しましょう。また、命綱を利用しましょう。
- 乾いた火山灰をほうきで掃くと、大量の火山灰が舞い上がります。濡らしすぎないように注意して水をかけ、スコップ等でかきとり、丈夫な袋に入れましょう。
- 屋根上に上る場合は、荷重がかかりすぎると家がつぶれる危険性があります。また、はしごや屋根の上は、火山灰でとても滑りやすくなっているので、特に注意しましょう。

